

にぎわい創出施設整備実施計画について

1. 背景と目的

本市では、にぎわいある都市拠点の形成を図るため、令和2年2月に「第2期岩国市中心市街地活性化基本計画」を策定し、官民が一体となって計画の基本方針に沿い、まちづくり事業を推進しています。

一方、中心市街地では、中央図書館麻里布分室の入る福祉会館の老朽化や耐震強度不足という課題から、施設の再編が検討されてきたことに加え、地元からは図書館機能を核とした施設の整備が要望されたことから、新たに「にぎわい創出施設」を整備することとしました。

本施設の整備に向けた取組では、市民の意向を反映するためのアンケート調査を実施し、この結果を踏まえ、様々な機能を有する施設を整備することとして、令和4年3月に「にぎわい創出施設整備基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定しました。

このたび、基本構想に基づき、運営管理を見据えた施設整備を行うため、市民ワークショップ等でいただいたアイデアや意見を踏まえた上で、基本設計と運営計画からなる「にぎわい創出施設整備実施計画」（以下、「本計画」という。）を策定しました。

2. 基本構想の概要

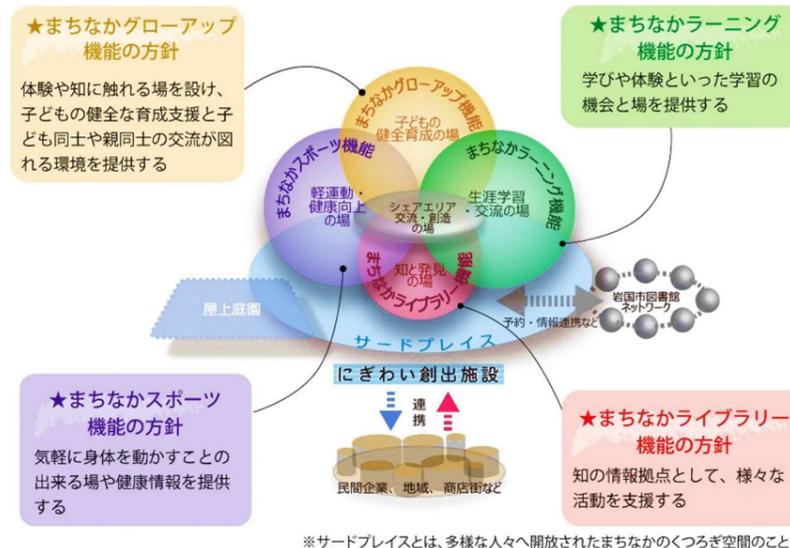
■基本理念

未来へと続くにぎわいと活力の創出のためには、若い世代がまちの魅力を発見し、まちへの愛着を育んでいくことが重要であると考え、“みんな”がいつでも気軽に寄り集まり、読書、子育て、学びや体験、運動などを通じてつながる施設を目指し「みんながつながる タマリバ空間」を基本理念としています。

■各導入機能の方針

にぎわい創出施設の方針

- ◎まちなかで誰もが集い活動できる場所やくつろげる場所を設け、交流によるにぎわい創出を図る
- ◎人が集い活動するのに有用な情報提供の効率化や活動における学び、関心、体験に最新の通信・デジタル技術を活用し、にぎわいにつなげていく
- ◎複合施設の特徴を活かした民間との連携を図り、にぎわいにつながる施設機能の幅を広げる



■基本整備方針

本施設では、複数の機能が含まれることにより、多様な人々が様々な目的で訪れ、利用目的や利用者層も異なります。静かに過ごしたい人、にぎやかに使いたい人、それぞれがその場で居心地よく過ごせる施設とし、それぞれを独立させることなく、相互に連携し、共鳴しあえるようなエリア配置を検討します。

基本整備方針

- 快適で居心地のよい施設の整備
- 安心で安全で分かりやすい施設の整備
- 明るく開放的な施設の整備
- 周辺地域と連携ができる施設の整備
- 様々なスタイルで利用できる施設の整備
- 機能的な配置

3. 地域とともに探る新たな施設像

図書館機能を核としながらも、様々な機能を有する新しい施設像を市民と一緒に探っていくため、全3回にわたりワークショップを実施しました。また、そこで得られたアイデアをもとに、地域との連携を実現可能なものとしていくため、地域商店街との意見交換会を実施しました。さらに、麻里布小学校においては「いわくにまちづくりプロジェクト」をテーマにした授業が実施され、未来を担う子どもたちが本施設について考えるきっかけもつくられました。

■市民ワークショップ

第1回テーマ「今、何したい？どこでやりたい？」

[日時：令和4年11月13日 参加者：26名]
新しい施設でやってみたいことのアイディアを出し合いました

- 【意見】
- ・ダンスや音楽の練習をしたい
 - ・勉強ができる場所
 - ・友達とゲームしたい
 - ・コーヒーが飲める場所
 - ・話して過ごせるスペース
 - ・リラックスできる場所 など



第2回テーマ「あの人が来なくなるシカケを考える」

[日時：令和4年12月11日 参加者：28名]
この施設ならではの工夫についてアイデアを出し合いました

- 【意見】
- ・フリーWi-Fiの設置
 - ・ソファやハンモックの設置
 - ・屋内遊戯スペースの設置
 - ・夜遅くまで開館する
 - ・映画の上映
 - ・静かなスペースと音の出るスペースを分ける など



第3回テーマ「この施設がまちと一緒にできること」

[日時：令和5年1月15日 参加者：21名]
この施設が商店街やまち全体と一緒にできること
地域との連携についてアイデアを出し合いました

- 【意見】
- ・商店街との連携
 - ・学校や地域との連携
 - ・市内他施設との連携
 - ・フリーマーケットや講座の開催
 - ・地域の魅力を発信
 - ・待ち合わせ場所として使用 など



■商店街との意見交換会

意見交換会では、市民ワークショップで出た意見を踏まえ、本施設と商店街との連携アイデアや工夫について協議しました。まちに積極的に関わりたいという思いを持っている人が多くいるという意見をはじめ、主体的な思いを持った人たちの活動を受け入れてくれる場所として、本施設に大きな可能性があるという意見などがありました。



■麻里布小学校5年生の総合的な学習の時間

麻里布小学校では、5年生が総合的な学習の時間に「いわくにまちづくりプロジェクト」というテーマで、岩国の商店街やまちづくりについて調べたり、地域のために自分たちができることを考えたりする学習を行いました。本施設についても魅力的な場所となるためのアイデアが多く寄せられました。



4. 運営方針

■基本的な考え方

誰にとっても気軽に居心地のよい空間とは、いつでも、目的なく訪れてもよい、様々な世代が思いのままに、それぞれの時間を過ごすことのできる開かれた空間であり、人々の多様な在り方を許容する場となります。また、何度でも訪れたいようになるために、岩国の魅力や最新情報をアップデートしながら効果的に発信し、常に変化し続けていくことも必要です。

本施設が目指すのは、まちの未来に欠かせない若い世代を中心に、多世代、外国人、地元の商店街を含む人“みんな”が主体的に創造、発信できるよう、それらの活動を支える仕組みづくりを行うことです。

基本理念で掲げた「みんながつながる タマリバ空間」に人が集い、交流が生まれ、ここで創られたものがまちの未来につながり、地域とともに末永く続く施設づくりを行っていくこと、そのような施設像を目指していきます。

■サービス方針

市民ワークショップ等で得られたアイデアや意見を踏まえ、各機能に加え、地域連携・市民協働のサービス方針と内容を検討しました。

まちなかライブラリー機能

- ・市民の活動・創造を支え、活動と読書を融和させる
- ・従来の図書館機能も持ちながら、通りかかる人の興味を引く資料の収集及び配架を行う
- ・施設内の至るところで読書や本の活用ができるようICTの活用を検討する

まちなかグローアップ機能

- ・子どもの年齢や成長に合わせて安全に遊べる遊具エリアを提供する
- ・魅力的な絵本などを通じて知に触れる機会を提供する
- ・子育て支援として役立つ情報の提供や親同士の交流イベントなどを実施する

まちなかラーニング機能

- ・若い世代が継続的に集えるよう、居心地が良く、自由に過ごせる空間づくりを行う
- ・ゲームもできる遊びの場や、友人との勉強や自習などができる学びの環境をつくる
- ・音楽やものづくりなどの活動を支援し、機材等の使い方もサポートする

まちなかスポーツ機能

- ・利用者の健やかな日常に寄り添い、気軽に身体を使った活動ができるよう支援する
- ・eスポーツやヨガ、ダンスなど、さまざまなアクティビティに適した環境をつくる
- ・様々な活動が自然と目に触れ、「自分もやってみたい」と思える環境をつくる

サードプレイス

- ・誰もがいつでも自由に過ごせる、公園のように開かれた場所をつくる
- ・発信機能を持たせ、活動の成果の発表やパフォーマンスイベントなどを企画する
- ・気軽に立ち寄り、コミュニケーションが生まれる場所をつくる

地域連携・市民協働

- ・地域の魅力を市内外へ発信する
- ・地域の回遊性を促進し、周辺施設との連携を図る
- ・地域とともに運営を検討できる仕組みづくりを行う

共通機能

- ・若い世代を中心とした幅広い世代に情報が届くよう、SNS活用など発信の工夫を行う
- ・多様な人にとって過ごしやすい場所であるために、多文化サービスを実施する

【各機能のサービス内容（案）】

	サービス内容		サービス内容		サービス内容		サービス内容
まちなかライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を支えるための資料の収集及び配架 ・活動に関連する資料等の館内閲覧での管理、対応 ・活動のインスピレーションを生む資料の収集 ・日本十進分類法をベースとしながら、テーマごとにキュレーション（※）、本との出会いを楽しめる棚づくり ・ICタグシステム導入による貸出し、返却、予約受取のセルフ化と回遊性等の充実 ・タブレットの貸出しサービス（雑誌最新号の館内閲覧） ・レファレンスの受付 ・本をテーマにした講座の開催 	まちなかラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が集まりやすい居心地のよい空間で、様々な過ごし方ができる環境の提供 ・気軽に読める資料の提供（コミック等の配架） ・卓球やテーブルサッカーゲーム等、若い世代が楽しみながら気軽に身体を動かせ、レクリエーションが可能な環境の提供 ・数人で会話しながら学習ができる環境の提供 ・集中して静かに学習ができる環境の提供 ・様々な機関、施設と連携し、学びの機会を提供するオンラインイベント、講座の開催 ・若い世代の活動を支援する資料の提供（ファッション、音楽、ものづくり等） ・工作ができる環境の整備とワークショップ等の開催 ・デジタル工作機器を活用したワークショップの実施及び活動のサポート ・楽器の演奏やバンド活動、音楽編集による作品のプロダクトなどの活動を支援できる環境の提供 	まちなかスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら気軽に身体を動かせる環境の提供 ・フィットネスや、健康をテーマにした講座の開催 ・市民の活動、パフォーマンスの支援 ・ダンス、ヨガなどの練習ができる環境の提供 ・自由に参加できるダンスワークショップ等の実施 ・オンラインでeスポーツができる環境の提供 ・eスポーツ大会、観戦イベントの実施 	地域連携・市民協働	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の収集及び発信 ・口コミ、地域ネットワークを活用した情報収集 ・施設内での地域情報の発信コーナー ・市域全体の施設や機関との連携イベントの実施・イベントに関連した資料の展示 ・運営及びサービスに関する市民ワークショップ、意見交換の実施 ・若い世代のアイデアや得意分野を活用したイベントの実施
まちなかグローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かしてのびのび遊べる空間の提供 ・スムーズな利用のための受付機能、見守りの人員配置 ・絵本や紙芝居など読み聞かせ、おはなし会の実施 ・季節の行事などの実施 ・知的好奇心を刺激する絵本、児童書の提供 ・子育て世代のライフスタイルに合う図書・情報の提供 ・子育て世代が交流できるイベントの実施 ・授乳室や子ども用トイレの設置 			サードプレイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとくつろげる空間の提供 ・気軽に雑誌などを閲覧できるスペース ・軽飲食をしながら読書、休憩ができる環境の提供 ・オープンな空間での講演会、ミニコンサート等の実施 ・映画の上映会イベントの実施 ・オープンスペースでの映像コンテンツ投影 ・市民活動などの展示、企画展 ・市内外の情報発信、イベントの実施 	共通機能	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の収集及び発信 ・口コミ、地域ネットワークを活用した情報収集 ・施設内での地域情報の発信コーナー ・洋書の収集・配架や、多言語による情報発信 ・国際交流イベントの実施 ・対面朗読サービスの実施

（※）キュレーションとは、情報の特定の視点を持って収集、選別、編集することで新しい価値を持たせ、それを共有することを意味する言葉

5. 施設整備方針

■必要諸室

運営方針で掲げたサービスの実現に必要な諸室・スペースを整備します。スペースの有効活用や機能融合による相乗効果の発揮、将来的に生まれる新たなニーズにも対応しうる柔軟性などの観点から、諸室・スペースを分断せず、様々な機能が混ざり合った可変性の高い空間の構築を目指します。

また、まちなかライブラリー機能については、麻里布分室と同規模の3万冊程度が収まる書架を設け、これを貸出しニーズに応えるための収容可能冊数とします。その上で、本施設での市民の活動・創造を支えるため、貸出しせずに来館すればいつでも閲覧できる資料も別途確保します。活動・創造を支える本については、面積規模や書架のレイアウトなどを踏まえ1万冊程度とし、施設全体での収容可能冊数の目標値を4万冊程度とします。

【サービス方針から検討した必要諸室】

機能	諸室・スペース
まちなかライブラリー	書架スペース
	予約本コーナー
	返却ポスト
まちなかグローアップ	屋内遊戯スペース
	児童開架スペース
	読み聞かせコーナー
	子どもトイレ
	授乳室
まちなかラーニング	交流スペース
	グループ学習スペース
	プレイルーム
	個別ブース (e-CUBE)
	音楽スタジオ
	編集スタジオ
	クリエイションスタジオ
	サイレントルーム
まちなかスポーツ	多目的スタジオ
	ダンススタジオ
	ラウンジ・ギャラリー・イベントスペース・カフェ
サードプレイス	エントランス
	オープンコア (大階段)
	スカイラウンジ
	リラクセススペース
共用施設・バックエリア	総合カウンター
	事務室・作業スペース
	更衣・休憩スペース
	倉庫
	トイレ

※個別ブースの名称は「e-CUBE」とする

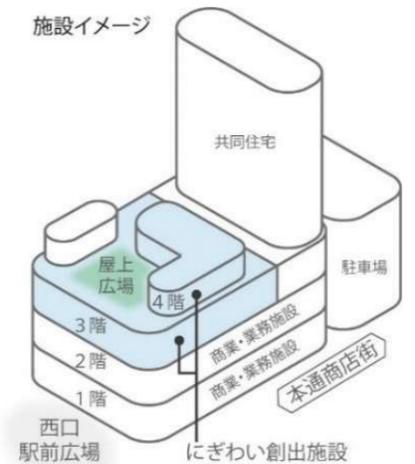
6. 配置計画

本施設は2フロアに分かれることから、メインの出入口が設けられる3階に動的な諸室・スペースを配置し、4階は比較的静かで落ち着いて過ごせる空間として、フロアによる静と動のゾーニングを行います。

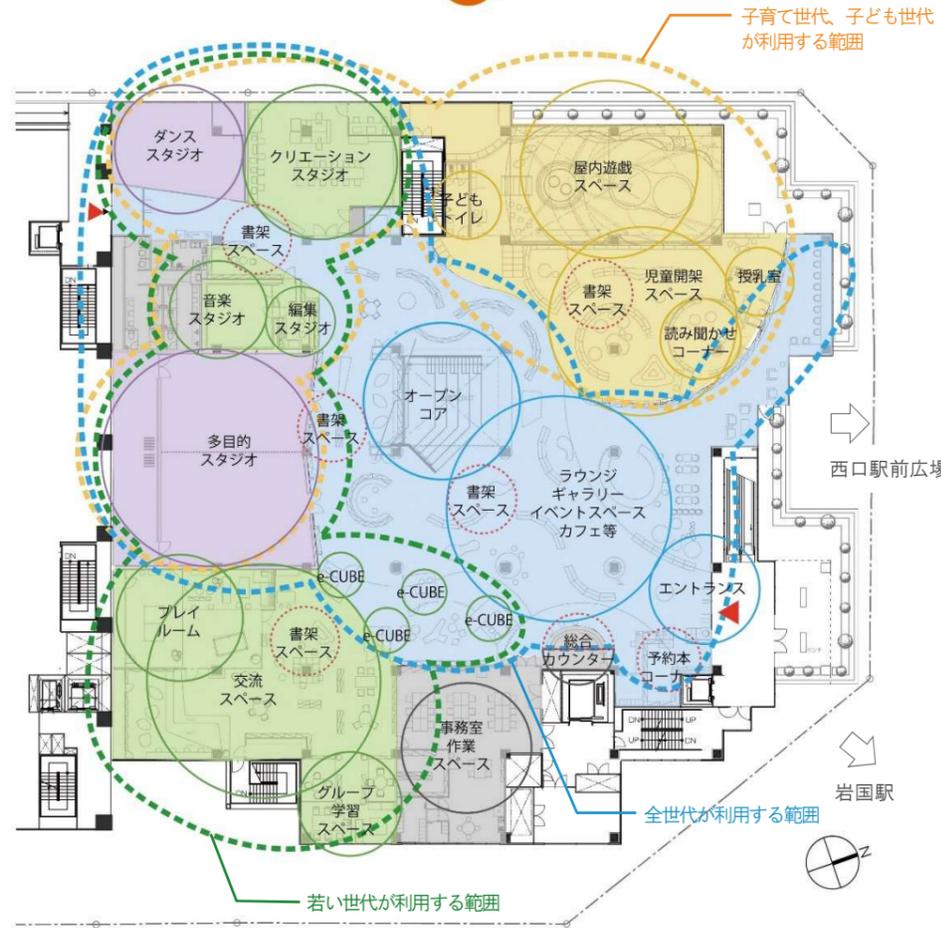
さらに、座席にもなる階段を持つオープンコアで2フロアを繋ぎ、施設としての一体感を持たせます。オープンコアは各出入口からのメイン動線の中心に配置することで、どの諸室・スペースからもアクセスしやすく、視覚的にもつながりを感じられる本施設の象徴的なスペースとします。

それぞれの諸室・スペースの配置はそこで行われる活動同士の関連性や主な利用者層を想定しながら検討し、例えば乳幼児から小学生までの子どもと親子連れの利用が中心となる児童開架スペースと屋内遊戯スペースを隣接させるなど、利用者にとって使いやすい配置となるよう工夫します。

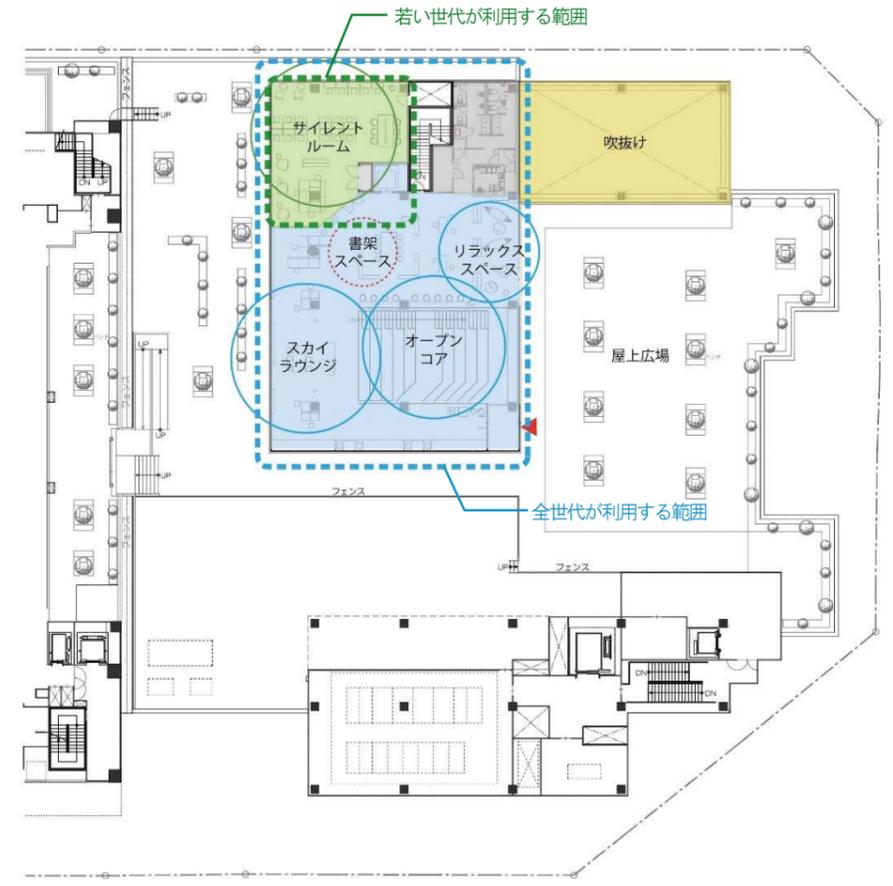
また、まちなかライブラリー機能は、各エリアでの活動の充実や新たな価値の創造を促すことを期待して、施設内に分散配置します。



3階 にごわいの空間を主として活動する **動** のエリア



4階 静かで落ち着いて過ごせる **静** のエリア



7. 平面計画

■ 書架スペース

それぞれのスペースで生まれる活動の充実や、新たな価値の創造を促すため、書架や座席を分散配置

■ 返却ポスト

各出入口から施設内への動線上に図書館の蔵書の返却ポストを設置

■ クリエーションスタジオ

様々な工作機器を取り揃え、個人やワークショップでのものづくり体験や創作活動等が可能なスペース

■ ダンススタジオ

ダンスの練習やヨガ・ストレッチなどのフィットネス、軽運動に適したスペースで、更衣室を併設

■ 編集スタジオ

録音・録画や音楽編集等に使用できる機器等を設置し、音楽スタジオとの一体的な利用にも対応

■ 音楽スタジオ

防音機能を備え、グループでのバンド練習や個人での楽器練習等に使用できるスタジオ

■ 多目的スタジオ

軽運動や講演会、ワークショップ、展覧会、映画上映等の幅広い目的で使用できるスタジオで、間仕切りで2室に分けての利用にも対応



■ 個別ブース (e-CUBE)

eスポーツやオンライン講座の受講、打合せ、対面朗読、個別相談会等、少人数での活動に適しており、ガラス・壁等で仕切られたブース

■ プレイルーム

若い世代が体を動かしたり、レクリエーションを楽しめるスペース

■ 交流スペース

読書や勉強をしたり、おしゃべりを楽しんだり、若い世代にとって居心地がよく、自由に過ごせるスペース



■ グループ学習スペース

オープンな空間で、気軽にグループで話し合いながらの学習や打合せに利用できるスペース

■ 屋内遊戯スペース

乳幼児～小学生が身体を使っているのびのび遊べる空間として、体の成長に合わせて遊べる大型遊具等を設置し、別途乳児が安全に遊べるスペースも確保

■ 子どもトイレ

子どもの体格に合わせた専用トイレ



■ 児童開架スペース

絵本や児童書をはじめ、子育て世代も楽しめる図書を配架し、子どもや親子が本選び・読書を楽しめるような書架や座席を設置



■ 読み聞かせコーナー

靴を脱いで寝転ぶことができ、おはなし会や親子の読み聞かせで子どもが絵本に集中できる設えで、子ども向けの小規模なイベントにも対応

■ 授乳室

保護者の性別に関係なく安心して使用できる授乳室

■ サイレントルーム

自習やライブラリー機能の本を使った調べ物に集中したり、静かな空間での読書ができる静かなスペース

■ 屋上広場

読書や周辺施設との連携イベント、マルシェやフリーマーケットの開催、屋外コンサート等を通じた一体的な利用が可能となるよう配慮



■ ラウンジ・ギャラリー・イベントスペース・カフェ

個人での読書・飲食から小規模なセミナー・展覧会まで、開かれた空間で様々な活動が交じり合うスペース

■ 予約本コーナー

メインとなる出入口からアクセスしやすい位置で、予約本のセルフ貸出しが可能なコーナーを設置

■ エントランス

施設の基本情報やイベント情報が一目でわかるよう設備を整える



■ オープンコア (大階段)

セミナーやミニコンサート等のイベント開催のほか、活動成果の発表や各スタジオとの中継など、本施設の核として各スペースをつなぐ場



■ スカイラウンジ・リラックススペース

屋上広場とのつながりを感じられる開放的な空間で、他のスペースよりもくつろげる家具等を設置し、ゆったり過ごせる空間



8. 管理方針

■開館時間・休館日

駅前という立地特性を踏まえ、若者だけでなく多様なライフスタイルの人が気軽に立ち寄り、待ち合わせにも利用したりしやすい施設とするため、開館時間・休館日を以下のとおり設定します。

(開館時間) 9:00~21:00
(休館日) 月1回、年末年始、特別整理日

※安全管理や利便性などの観点から、再開発ビルに併設される他の施設の営業時間・営業日や市内図書館の休館日との整合性に配慮し、整備状況に合わせて検討します。

■まちなかライブラリー機能

諸室・スペースでの活動に本や雑誌などの資料が活用できるよう、テーマに合わせた10の分類で配置します。貸出し可能な本と館内閲覧の本は、エリアや棚で明確に区分し、利用者が分かりやすく区別できるように工夫します。また、効率的な管理や利用者の利便性に配慮したICタグシステムの導入を検討します。

【10の分類案】

・貸出し可能な本(3万冊程度)

No.	分類概要	関連する諸室・スペース
1	幅広い世代の多様なニーズに応え、まるで公園に行くように気軽に手に取れる資料	サードプレイス
2	絵本や児童書を中心に子どもが手に取りたい資料	児童開架スペース
3	子育て世代をはじめ、子どもをとりまく人々に向けた資料	児童開架スペース、サードプレイス

・館内閲覧の本(1万冊程度)

No.	分類概要	関連する諸室・スペース
4	音楽活動や映像制作、音楽・映画鑑賞等に興味を持つ人へ向けた資料	音楽・編集スタジオ、多目的スタジオ
5	様々なジャンルの創作活動やものづくりに役立つ知識やアイデアを得られる資料	ダンススタジオ、クリエイションスタジオ
6	コミックやライトノベル等、若者や日本のポップカルチャーが好きな人が楽しめる本や雑誌、ZINE等の資料	交流スペース
7	部活動や軽運動、本格的なスポーツまで、思わず体を動かしたくなるような本や多世代の心と体の健康に関する資料	多目的スペース、プレイルーム
8	アウトドアや趣味に関する本など、ゆったりと読書を楽しみながら次の活動への期待と活力を得られる資料	リラックススペース
9	ビジネス書をはじめ、忙しい大人の息抜きや生活のヒントとなる資料	スカイラウンジ
10	岩国の今を知り、これからを考えるきっかけとなる観光情報や郷土資料、駅前商店街の情報や本施設での活動成果等	様々なスペース

※館内閲覧を前提とした分類についても、資料の特性に応じて部分的に貸出し可能とするなど、ニーズに応じた対応を検討します。

■まちなかグローアップ機能

屋内遊戯スペースでは、子どもたちが安全にのびのびと遊べる環境を維持するため、専用の受付カウンターを設置して遊戯スペース内の人数制限や時間制での利用者の入替を検討します。

利用にあたっては、遊具の維持管理費用を考慮し、入場料を設けることも検討します。

■まちなかラーニング機能・まちなかスポーツ機能

利用が集中しやすいと予想される下記の諸室については、予約管理システムを導入し、施設内設置の専用端末やインターネットを通じて事前予約や予約状況の確認が可能な仕組みを構築します。また、一部専門性の高い機材などを設置している部屋については、使用方法に精通した人材を配置し、市内外の類似施設の貸出し要件を踏まえ適切な価格帯を検討の上、有料とします。

	諸室名	料金設定	予約区分	貸出区分	受付時期
まちなか ラーニング	音楽スタジオ	有料	時間単位	部屋単位	事前・当日
	編集スタジオ			機材単位	
	クリエイションスタジオ			部屋単位	
	個別ブース(2~6人席)	座席単位			
	サイレントルーム	部屋単位			
	グループ学習スペース	機材単位		当日のみ	
まちなか スポーツ	ダンススタジオ	有料	時間単位	部屋単位	事前・当日
	多目的スタジオ		朝/昼/夜	部屋単位	事前のみ

※朝(9:00~12:00)、昼(13:00~17:00)、夜(18:00~21:00)

■サードプレイス

明確な境界のないオープンな空間で、訪れた人が思い思いに自由に過ごせる場であることから、効果的な使用方法を検討し、計画的にイベントなどを実施します。

■管理運営体制

本計画の策定に当たっては、市民ワークショップなどで寄せられたサービスに関する新たなアイデア・意見も踏まえ、図書館機能を核として多様な活動・創造を促すサービス方針を検討しました。

こうしたサービス方針を実現するためには、専門性を活かしながら活動・創造を促すコンテンツの提供や、各機能をまたいだ柔軟な企画、一体的な管理運営が求められます。

これらを踏まえ、本施設では「指定管理者制度」を活用した運営方式が最適であると判断します。

9. 全体スケジュール

再開発事業のスケジュールに合わせて、令和11年度中に供用開始を予定しています。(令和7年2月時点)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
にぎわい 創出施設	実施計画 の策定	実施設計		施設運営の 検討準備			工事	供用開始 (開館)
再開発 事業	基本設計等 再開発ビル	実施設計等 再開発ビル			解体除却 工事	新築工事 再開発ビル		再開発ビル オープン

【お問い合わせ先】 岩国市 都市開発部 都市拠点整備課 まちなかデザイン班
住所：〒740-8585 岩国市今津町一丁目14-51
電話：0827-29-5171 F A X：0827-24-4207
メール：kyoten@city.iwakuni.lg.jp